

## 卒業式式辞

---

弦月庭園の梅も、一輪、また一輪とほころび、校庭のそこ此処に新たな生命の息吹が感じられる今日のおき日、県教育委員会をはじめ、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席のもと、第六十八回卒業式を挙げてできますことは、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。昨年、生誕百三十年を迎えた郷土の歌人、若山牧水の歌に「うす紅に 葉はいちはやく 萌え出でて 咲かんとすなり 山ざくら花」という歌があります。今、まさに新しい旅立ちを迎え、花咲こうとしている皆さんの様子を詠んでいるようです。本日、卒業証書を手にとられる四百四十名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。本校でのこの三年間には、楽しかったことや苦しかったこと、悩んだことなど数多くあったことと思います。それら乗り越えての今日の日であります。皆さんは、本校での三年間の課程を修了した喜びと、これからの新生活への期待を胸に、それぞれの進へと旅立ちます。この門出にあたり、心から幸多かれと祈ります。

また、保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございませう。高校三年間は疾風怒濤の時代でもあり、悩み多い時代でもあります。それだけに、幾多の試練に耐えてこのように立派に成長した我が子の姿を目の前にして、感慨もひとしおのものがおありかと思ひます。心からお祝い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんの脳裏には、本校での三年間の出来事の一つひとつが、走馬燈のように蘇<sup>よみがえ</sup>ってきていることと思ひます。三年前、期待に胸を膨らませて大宮高校の門をくぐった日。部活動との両立に苦しみながら日夜勉学に追われた日々。本校の校是ともいえる「自主自律」の大宮精神のもと、四校定期戦や弦月祭、体育大会、クラスマッチに打ち込んだ日々。特に昨年の弦月祭での合唱コンクールや、体育大会での応援合戦など、卒業生の皆さんは最高学年として、リーダーシップを大いに発揮し、元気よく後輩たちを引っ張り盛り上げてくれました。特に、強く印象に残るのが、体育大会の閉会式でのPTA副会長さんの音頭による『万歳三唱』でした。自然発生的に生徒諸君が隣の人と手をつなぎ始めました。その動きは各団のリーダーの人たちから、生徒全員にすぐに伝わり、全校生徒全員が互いに手を取り、手をつないだ状態での満を持しての万歳三唱となりました。

おそらく、その時皆さんの心にあったのは、この行事へ「心から協力してくれた同級生や先輩・後輩への感謝」・「仲間との一体感やゆるぎない信頼感」・手に手を取り、手と手を結び、その思いを全校生徒で表現したい。そのような自然発生的な思いがあつての万歳三唱であつたと思ひます。卒業生の皆さんにとつても、青春時代の1ページとしていつまでも心に残る弦月祭・体育大会だつたと思ひます。このように、本校での三年間の様々な活動を通して、友情を育むとともに、切磋琢磨しながらお互いを高めてきた皆さんが、これからは、自分で選んだ道<sup>とおし</sup>を、自分で切り拓いて進んでいくこととなります。これまでの学校生活と異なり自分の責任と判断がなお一層重要となります。

さて、本校は昨年4月より、文部科学省のスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、宮崎大学の海外留学生との交流・ラグビー日本代表ヘッドコーチであつたエディ・ジョーンズ氏による講演会の開催、留学生の積極的受け入れや日本では高校に当たる台湾高雄高級中学との姉妹校締結、さらに今年一月には、宮崎大学との連携協力協定の締結など、「多様な価値観を持った人々と協働しながら、主体的・積極的に活躍できる柔軟な国際感覚あふれる人材の育成を」目指して様々な取組を推進して

いるところです。

また、先頃の国政調査の発表にもありましたとおり、我が国は本格的な人口減社会の到来や高齢化の進行、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会や職業のあり方そのものも大きく変化しようとしています。そのような変化の激しい時代に、皆さんには、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑戦し、未来を切り拓いて行くことが求められています。現在の大人である我々が懸命の努力をすることはもちろんですが、未来社会の力強い担い手となる皆さんにこそ、一層大きな期待をよせずにはられません。ここに集う皆さん方の潜在的な能力は、私たち大人やあるいは、皆さん方自身が思っている以上に、優れたものがあると私は信じて疑いません。そのような思いを込めて、人生の新たな出発をされる皆さんに、三つの言葉を贈りたいと思います。

一つ目は、「感性や気づく心を」さらに磨きなさいということです。この言葉は、私が本校の校長として赴任した二年前、平成二十六年四月の一学期最初の始業式でも話をしました。卒業生の皆さんが新二年生になったばかりの時でした。「細かいことを感じるか。感じないか。考えるか、考えないかで人の成長は違ってくる。とにかく、感じて考えることからすべてが始まる。」「自分を高めるのは自分です。その第一歩が『気づき』です。」という内容の話をしました。何かを始める時、最初に「感じること」や「気づき」がなければ何も始まりません。かつて環境問題に関して、大きな問題提起をしたレイチェル・カーソン氏は、その著書で「世界中のこどもに「センスオブワンダー＝すなわち、神秘さや不思議さに目を見張る『感性』を授けて欲しい。知ることは、感じることの半分も重要でないと固く信じています。」と述べ、子どもたちが体験を通して「感性」を磨く大切さを強調しています。しかし、気づかなければいけないことほど、気づけないものです。人の優しさ、暖かさなど、大事なものは見えません。感じることは難しいことです。皆さんには、見えないものをしっかりと見て欲しい。是非、見えないものを見ることができるよう「感性」、や「気づく心」をさらに育てて欲しいと思います。

二つ目は、「ノブレス・オブリージュ」という言葉です。

ギリシャ哲学の流れをくむ、ノブレス・オブリージュとは、「高貴なる義務」という意味だそうです。フランスの騎士道、イギリスの紳士道、そして日本の武士道に相通じるものがあります。新渡戸稲造は、著書「武士道」で、「武士道とは、武士階級のノブレス・オブリージュ」であると書き、武士の果たすべき行動規範をいくつか挙げています。今は時代が異なりますが武士でなくとも、それぞれの立場、地位には、それぞれ果たさなければならない義務や責任があります。そして、そもそも「高貴さ」は、その富や権利に由来するのではなく、あくまで、期待される義務や責任を果たすことによって生まれるものだと思います。昨年六月に公職選挙法が改正され、選挙権年齢が十八歳以上に引き下げられました。皆さんは、今年七月に実施が予定されている国会の参議員議員選挙から有権者として投票することができます。誰かに任せるのではなく、積極的に選挙を通じて政治に参加していくことが、有権者としての権利であり、責務でもあります。現在から未来の社会を担っていく皆さんに、ノブレス・オブリージュを期待します。

三つ目は、本校校長室に、<sup>とく</sup>「得意<sup>いたんぜん</sup>淡然・失意<sup>しつたいぜん</sup>泰然」という言葉の色紙が、額に入れて飾ってあります。昭和四十三年、本校の創立八十周年記念式典で講演された、本校OBで旧制宮崎中学校出身の、当時の大阪市長「中馬馨（かおる）氏」寄贈の色紙だそうです。

「得意淡然・失意泰然」という言葉は、幕末から明治という激動の時代に、活躍した「勝海舟」が好んで口にした言葉だそうです。西郷隆盛との談判で、江戸城の無血開城の立役者として有名ですが、若い時から苦学して蘭学を修め、多くの人材を育成したことで有名な人物です。この「得意淡然・失意泰然」という言葉の意味は、人は運にも恵まれ、好調な時には、とかく有頂天になり、油断をしたり、放漫な言動になりやすい。逆に、不運、不調の時には自信喪失し、或いは不平不満や卑屈な言動が出てくることもあります。「得意淡然・失意泰然」という言葉には、得意の絶頂にあっても、慎重で謙虚な、そして淡々とした姿勢をとることが大切であり、また、失意の時にあっても、自己を失うことなく、ゆったりと落ち着いた姿勢を保ちたい、という願いが込められています。皆さんも卒業後は、順境あり逆境あり、得意の時も失意の時もあるかもしれません。本校での「真理を探り、美にあこがれ、体を鍛え、善を行う」諸活動で培った力と、生来の自分の良さ・持ち味をしっかり見つけ、どんな時も、高い志を持ち、挫折を恐れず立ち向かう勇気と不屈の気概を持ちながら、この「得意淡然、失意泰然」の心を失わないようにして欲しいと思います。

卒業生の皆さん、皆さんは今日を限りに、いよいよこの大宮高校と別れることになります。しかし、大宮高校は一生涯、皆さんの母校です。今年、大宮高校は創立百二十八年目を迎えます。卒業生は四万八〇〇〇人を越え、国内外で活躍されています。また、昨日入会した大宮高校同窓会「弦月会」も、地元宮崎はもちろんのこと、東京弦月会をはじめ・関西・福岡・熊本と各地にあります。本校の卒業生として、先輩を訪ね、同窓生としての絆をさらに深めてください。

結びになりましたが、保護者の皆様には、この三年間、本校の教育活動に絶大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。これからも職員一丸となって、「保護者や地域に信頼される学校づくり」に邁進して参りますので、今後とも本校へのご支援の程、お願い申し上げます。また、ご来賓の皆さま方には、ご多用中にもかかわらずご臨席を賜り、卒業生の門出を祝福していただきましたことに、心から感謝申し上げます。式辞といたします。

平成二十八年三月一日

宮崎県立宮崎大宮高等学校 校長 にしたての やすひろ  
西立野 康弘